



特集 医療関連機器 圧迫創傷 ～発生と悪化をどう防ぐ？ 今まで気づかなかったこんな機器まで～

どの病棟でも起きやすい 医療関連機器圧迫創傷 ～胃瘻，点滴ライン，抑制帯～

天内陽子
奈良県総合医療センター 看護部，皮膚・排泄ケア認定看護師

- Point**
- ▶ 胃瘻周囲の皮膚を観察して気をつけるべき徴候や対処法が説明できる
 - ▶ 点滴ライン挿入中に発生する医療関連機器圧迫創傷の予防法について理解できる
 - ▶ 拘束具使用時に発生する圧迫創傷の好発部位が説明できる

はじめに

医療関連機器圧迫創傷 (medical device related pressure ulcer ; MDRPU) は、医療機器を使用する状況ではいつ発生してもおかしくありません。今まで、発生しても仕方がない、当たり前だと思っ

ていた創傷も、原因をアセスメントして対策を講じることで、発生を予防することができます。使用する機器の特徴を知り、予測的にケアを実施しましょう。

胃瘻によって発生した MDRPU

発生機序

胃瘻周囲の紅斑は、ストッパーの締め付けにより多く発生します。とくに、胃瘻造設直後や入れ替えを行ったあとは、患部に浮腫を伴うこともあ

り、外部バンパー (体外固定板) や内部バンパー (胃内固定板) が皮膚や粘膜に食い込み、圧迫を起こす可能性があります (図1)。外部バンパーには『ボタン式』と『チューブ式』があり (図2)、それぞれ特徴があります。『ボタン式』は目立ちにく

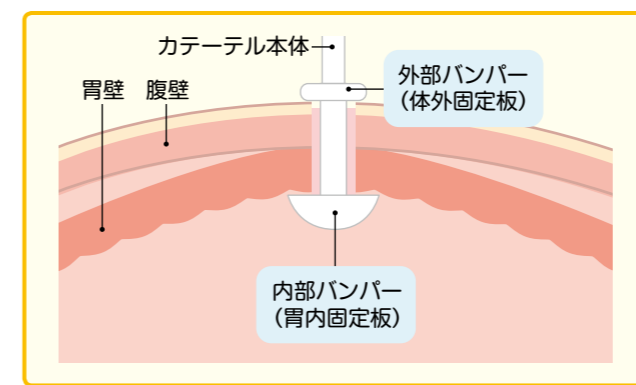


図1 PEGカテーテルの構造 (文献¹⁾ を参考に作成)

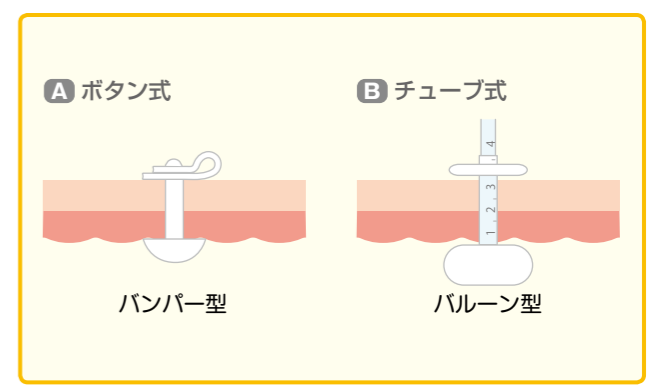


図2 PEGカテーテルの外部バンパーの方式 (文献⁴⁾ を参考に作成)



図3 PEGの紅斑



図4 PEGの潰瘍

く自己抜去が少ないですが、内部バンパーと外部バンパーとの長さ (シャフト長) が調節できないため、体重増加により腹壁の厚みが増すと、気づかないうちに外部バンパーが皮膚表面を圧迫したり、内部バンパーが胃壁に埋没し、バンパー埋没症候群 (buried bumper syndrome ; BBS) を発症する可能性があります。また『チューブ式』ではカテーテルが長いため、長期間同一部位で固定していると瘻孔縁に圧迫が生じてしまうため、定期的に固定位置を変更する必要があります。

創の特徴

外部バンパーによる圧迫のために発生する紅斑 (図3) や、チューブ式のカテーテルを挿入して

いる場合はカテーテルを同じ方向にばかり倒していると瘻孔縁部に潰瘍 (図4) や過剰肉芽が発生します。

- 予防方法**
- 観察**
胃瘻挿入部およびその周囲を、清拭時や注入のたびに最低1日2回以上観察します。
- 保清**
1日1回は洗浄剤を用いて清拭や洗浄を行い、清潔に保ちます。高齢者や、皮膚の乾燥、浮腫のある患者には、洗浄後に保湿剤を塗布します。
- また、撥水効果のある皮膚被膜剤の塗布や、PEG (経皮内視鏡的胃瘻造設術後) 後専用の皮膚保